

## リンゴおい性台木 JM7 利用樹の衰弱症状における 年輪異常発生年の特定と樹勢回復法

リンゴおい性台木 JM7 は、挿し木発根性が良いなど優れた特徴を持つ台木で、岩手県内では栽培面積が増加していますが、2004 年に JM7 台利用樹において樹勢の衰弱が顕在化し、衰弱の著しい樹は枯死も認められているため、この原因解明と対策技術の確立が急務となっています。そこで、岩手県農業研究センターでは年輪異常の発生年を特定することによる原因解明と樹勢回復対策としての盛り土の効果について明らかにしましたので紹介します。

### ☆技術の概要

1. JM7 台利用樹の衰弱樹の年輪異常（波形）発生年を調査したところ、異常が確認された年輪の年代は 2000 年及び 2001 年に多く（[図1](#)）、冬期の低温遭遇が原因の一つとして考えられました。
2. 衰弱樹の樹勢回復対策は盛り土が有効です。盛り土は樹勢衰弱症状を確認したら、早めに接ぎ目コブの上部（接ぎ木部直下）まで行いますが、自根が発生しないように穂品種までは土を盛らないように注意します。盛り土部位は当年から発根し、3 年で根量は著しく増加します。その結果、樹勢が回復し、収量および果実重も維持できます。

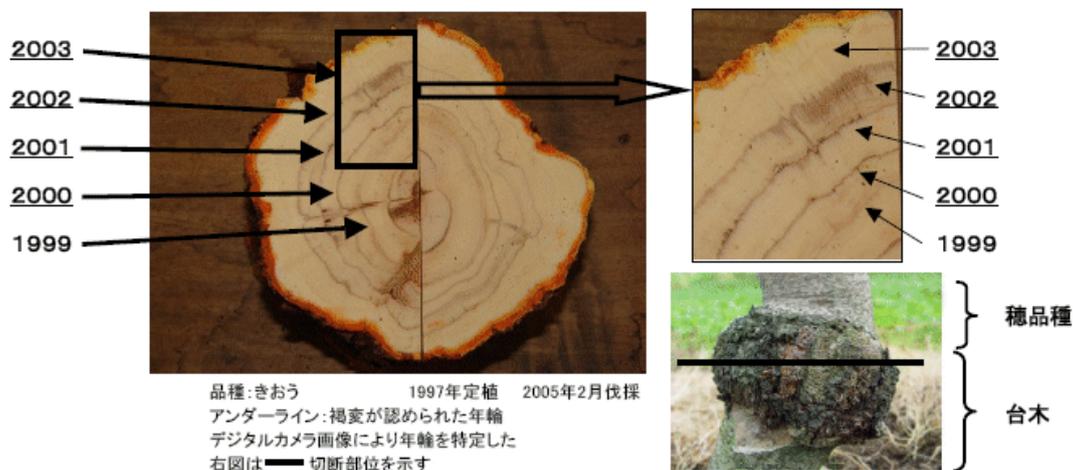


図1 年輪形成年と年輪異常(波形)の状況(左図)および外部症状(右図)

### ☆成果の活用と留意点

1. 若木では冬期に白塗剤を地際部に塗布し、剪定や肥培管理により適正な樹勢を維持するなど、凍害対策を十分に施すことが重要です。
2. 詳細については、岩手県農業研究センター技術部果樹研究室（TEL：0197-68-4419）にお問合せください。

（農研機構果樹研究所 別所 英男）